

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4393000023		
法人名	社会福祉法人 慈友会		
事業所名	グループホーム慈愛 I		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字天月1345番地		
自己評価作成日	令和6年9月30日	評価結果市町村受理日	令和7年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和6年11月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

コロナ5類移行後も感染対策を講じながら、利用者が地域と繋がりが暮らし続けられるよう清掃活動などに参加し交流を継続している。また、散歩などを通して、地域の方との交流のきっかけ作りに繋げている。家族とは定期的に連絡を取り合い、信頼関係を構築している。地域とはこまめに挨拶を交わし可能な限り関わりを大切にしている。施設では、花を植えたり、畑での野菜作りを通し、季節の移り変わりを感じながら収穫の喜びを共有している。利用者の健康管理に関しては、協力医療機関による月2回の訪問診療と24時間の緊急時対応がなされるなど、医療機関との緊密な連携を図ることが出来ている。□ □

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当地域に開設したホームは増床を経て2ユニットとなり、地域の中に溶け込み人々に支えられながら運営している。入居者がこれまで慣れ親しんだ生活習慣や馴染みの行事、食事、人々との関わりなどが入居後の生活においても継続できるよう、個別の生活歴や会話から引き出し、日々の支援に反映させている。菜園の作業には入居者が種植えから関わり、在宅時より得意としていた魚の下処理を喜んで引き受ける等馴染みの暮らしが窺える。法人全体で感染対策を継続しており、外出や交流に制限がかかる事もあるが、職員は入居者がこれまで通り、地域で暮らしていくことの重要性を受け止めている。庭先から人々と挨拶を交わし、地元の神社行事、花見学などには地域資源を活用して出かけている。また食で季節を感じてもらうよう四季折々の団子作りには「そぎゃんじゃなか〜！」と声を出しながら職員に指導されるなど長年の経験が活かされ、生き生きと参加されている。今後のホーム運営が更に期待されることである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共生の生活づくり」を基本理念とし、事業目標を具体的に設定することにより職員が共有でき実践へと繋げられている。	ホームでは理念を具現化した事業目標を毎年立てており、理念をより身近に感じながら入居者の支援にあたっている。職員は会議の中で理念を振り返り自身を評価する機会をもち、日々のケアについてはカンファレンスの中で振り返るようにしている。入職者に対してはホームの歩みを紹介しながら理念について話をすることとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染対策を講じながら地域の奉仕作業に参加するなど関係が途切れないよう努めている。	本年度は防災訓練や地域との奉仕作業(ひと汗運動)、公民館掃除などに参加しながら交流を継続している。地域の人々とは顔なじみであり、日頃より会話を交わし、前面道路を散歩する保育園児からは「元気で長生きしてください!」との言葉に涙して喜ばれている。花や野菜などの差し入れも続いており、高齢者を抱える家族からの相談事などには包括を紹介するなど関係性が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染5類移行後も広範囲では行えていないが、運営推進会議の時につたえている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染5類移行後も感染に注意し定期的に会議を行い、行政、地域、民生委員、家族代表、利用者代表に参加いただき、報告や話し合いが出来き、サービス向上に活かしている。	運営推進会議には行政や地域代表者の他、家族や入居者の代表も参加している。昨年の法人異動による管理者交代に伴い、初回会議には前管理者も同席し、スムーズな引き継ぎが出来ている。ヒヤリハットや事故報告については、再発防止対策及び事故を予測することで予防策を実践し、入居者の安心安全な生活や、ひいては職員や事業所を守る事にもつながるとして、リスクマネジメントの重要性について話し合っている。	会議に参加しない家族については事前に意見や要望を尋ねる等工夫している。今後は会議の中で身体拘束や虐待について日々の取組や研修の内容などを報告し、ホームの姿勢を発信されることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政へは常に現状報告を行っている。行政からの通達はメールで届いているため、最新の情報をケアサービスに反映させている。	運営推進会議に行政や包括から参加してもらうことでホームの現状を発信し、意見や要望を運営に反映させている。行政に報告書などを提出する際には事前に連絡し、認定調査時には職員が立ち会い入居者の普段の姿を見てもらうこととしている。包括主催の研修には本体と連携し、管理者が参加するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを基に定期的に話し合いを実施、全職員が拘束をしないケアを徹底している。	定期的に開催する身体拘束委員会では入居者への声掛けや言葉使いについて話し合い、互いに注意し合える関係作りが必要としている。また転倒防止等にセンサーマットや人感センサーを設置する場合には家族への事前の説明と了承を得ており、見直しの結果については継続の必要性や必要がなくなった際の中止を報告し、使うことが前提とならないようにしている。	身体拘束や虐待についてはホームの指針を玄関などに掲示し、来訪者にホームの姿勢を発信されることが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で高齢者虐待防止関連法について確認し、理解を深めている。言葉遣いや口調をお互いに注意し合える関係がある為、防止できている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	知識を深める事に努めている。該当者がある場合は、関係機関に助言、指導を求めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、家族が納得がいくような説明を心がけ、不安や疑問について十分な説明を行っている。また、利用料金変更の対応など随時説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染5類移行後も感染対策として家族会は開催していないが面会時や電話連絡時等の際、聞き取りサービスの質の向上に努めている。	入居者の要望は普段の会話から聞き取り、外出への希望にドライブしながら車窓から自宅方面の景色を眺めて気分転換を図るなど、本人の思いに出来る限り応えるようにしている。逆に外出への要望がない方には、近隣の散歩や野菜の植え付けなど興味があることに誘うようにしている。家族からは入居者との外食や外泊を希望される声があがっているが、感染症対策を継続中であり、現在のホームの対応について説明をしている。	家族には運営推進会議や面会時、電話などで意見や要望を確認しているが、今後内容を検討し、家族へのアンケートを取られることも良いと思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人ひとりの意見や要望を聞く機会を設けるなど、働きやすい職場環境に努めている。	職員は業務改善について意見や要望があれば主任に伝えており、職員会議で検討した後決定した内容については管理者が法人にあげている。個別の相談事や要望は普段から聞き取り、何でも言える環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の意見を聞く機会を設け、向上心を持って働けるような配慮や対応に努めている。また、業務改善委員会を毎月開催し、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は、管理者や職員一人ひとりの力量に合わせた、研修を動画で受けている。外部研修に関しては、WEB研修に参加するなど知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	水俣、芦北グループホーム連絡会で情報交換等を行っていたが、コロナ禍で開催されていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅へ訪問し、生活状況や本人の不安や要望等を聞き取り、関係作りに努めている。また、スタッフ間で情報共有できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	連絡を密に行うことで、家族の意向や要望、不安などしっかり受け止めながら、関係を築くことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、家族、本人の希望や要望を伺っている。状況によっては、関係機関と連絡を取り合い、必要なサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重しやりたい事、出来る事を見極め関わり、コミュニケーションが取れるようサポートするなど一緒に過ごす時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密に取り生活状況、心身の様子等を家族に伝えている。家族の意向を聞きながら、共に本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策継続中で難しいが、季節毎の外出の時、できる限り馴染みの場所を訪れるなどの支援に努めている。	入居者は菜園での一連の作業に関わり、収穫した野菜は下ごしらえして日々の食事に活用されている。これまで培われた特技や趣味が発揮できる場面を大切にしており、ユニットに1名ずつ魚捌きを得意とする入居者はこれまでの事が出来ると喜ばれるなど、自信や張りにもつながっている。地元神社の馴染みの祭りに参加し、参加できなかった入居者に出店でおみやげを買う等ホームでの関係性が出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が仲介役になり、共同生活が楽しくなるように支援している。また、利用者が孤立しないよう、共に暮らしを楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も状態把握に努め、必要に応じて相談を受ける体制を取っており、これまでの関係性を断ち切らないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話やコミュニケーションから、本人様の希望や思いを把握し実践へと繋げている。困難な場合は全職員で検討したり、家族へ相談しその都度対応している。	職員は日々の関わりから思いを収集し、支援に反映している。表現困難な方には日頃の生活の様子や表情などから汲み取り、家族に尋ねながら本人・本位となるよう心を配っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、利用者からコミュニケーションの中で、情報を収集し日頃のサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送り時に個々の現状、心身の様子等話し合い、連絡ノートも活用し情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見や要望、また日頃の職員の気づきなどを取り入れながら、チームで話し合い介護計画書を作成している。	計画作成担当者は入居者・家族の意向をくみ取り、職員意見や入居前の情報シートをもとにプランを立案している。入居直後の不安な気持ちはそのまま入居者の言葉としてプランに記し、1か月後の担当者会議には本人・管理者、職員数名が参加してホームでの生活の様子や会話から気付きや必要な支援を提案し、事前に収集した家族の意向と重ねて見直しを図っている。入居前の食形態から”お粥”としていたが、本人の「普通のご飯が食べたい！」との思いにホームでの状況をみて変更するなど本人の思いに応えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入している。また、日々の状態を申し送ることで情報を共有し、実践や見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々利用者や家族のニーズに対し、出来る限り実現できるよう柔軟な対応に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ5類移行後も感染対策のため積極的な実施はできていないが、本人の思いに添って近くの美容室へ行く等の支援は出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療と24時間の緊急時対応がなされ、より適切な医療が受けられている。また、専門医へは家族の希望を大切に、医療を受けられるよう支援している。	現在、家族の了承のもと全員が法人医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療と必要時にはその都度受診を支援している。専門医については家族の対応を依頼し、紹介状を作成している。歯科は必要に応じて家族対応で受診されており、ホームでは毎食後の歯磨きを支援している。体重測定も健康管理の一つとし月1回行い、必要があれば家族へ報告しており、特に減少した場合は食事への対応について伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時に看護師へ、状態や気づきなどを伝え相談することで、適切な診療や看護を受けることが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に足を運び、病院や家族に、回復状況の確認や情報をいただいている。また、主治医とは月2回の定例会議の中で、情報交換や相談ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要になってくると、ホームでは対応できないことを入居前に説明を行っている。自分達に出来る支援の関わりを尽くし、入院や退居などに至るまでの充実した対応を心がけている。	入居前に医療行為が必要となれば対応できない事を説明しており、特養や医療機関へ移行されている。高齢者は湯舟にゆっくり浸かる入浴を望まれるが、ホームの浴槽は一般浴であり、対応が難しくなっていく現状も語っている。介護度が高くなってもホームに出来る支援であれば継続して過ごされている。職員は家族の気持ちをよく聞きながら支援しており、入院や退居に至るまで充実した対応を心掛けていることが聞き取りからも伝わってきた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を定期的実施していたが、コロナ5類移行後も行っていない。対応に不安な時は、管理者やかかりつけ医へ24時間連絡が出来るよう体制を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の災害訓練を行っているが、感染症対策の為、近隣住民との合同訓練が実施されていないが、災害時は、地域の消防団の協力体制も築いている。	今年は地域の方に書面と放送で避難訓練を知らせ夜間想定での実施と、職員のみで通報訓練を行っており、今後は自主訓練や自然災害を想定した訓練を予定している。安全チェックとしてコンセントの埃も月1回行われている。BCPIについてはホームで作成し、防災担当者による職員間の共有も図られている。備蓄は食料、物品を各ユニットで備えている。	今回は感染症に配慮し地域の方へ訓練を知らせたもの見学に留まっている。地元消防団との協力体制は築かれており、今後は状況をみながら近隣住民との合同訓練に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思いや気持ちを尊重しながら支援にあたっている。誇りやプライバシーを損ねないよう、スタッフ間で話し合い、言葉遣いや声掛けには注意を払い対応している。	個々の誇りやプライバシーを損ねない支援に努めることを共有している。呼称は苗字が殆どであるが、同姓等の場合は下の名前でも対応しており、入居時に家族へ確認している。身だしなみの支援として外出を兼ね長年交流のある地域の美容室へカットに出かけたり、爪切りはチェック表を活用して取り組んでいる。車いすの汚れも尊厳に繋がるとし、安全点検を兼ねて掃除されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で、表情や反応を注意深く観察することに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者の状態や要望に応じて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服装などの好みを把握し、個別に支援している。爪切りは入浴時にチェックしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事への感想を検食簿へ記入することで、次の食事支援へと繋げ、楽しみのあるメニューを心掛けている。時々ではあるが、利用者と一緒に下拵えを行っている。	入居者の好みやリクエストを取り入れ喜んでもらえる料理を職員が輪番で手作りしている。食材は冷凍より生のものに拘り、地域のスーパーや足を延ばし隣町などにも購入に出ている。庭の柏の木の葉を使った柏餅や半夏饅頭、おはぎ、黄粉餅、うぐいす饅頭など季節に応じた饅頭、お供え団子作りは入居者の出番である。家族にも「〇〇の料理が喜ばれましたよ！」や魚捌きをしてくださる方もおられ「まだできる作業が続いていますよ！」など安心につながる報告を行っている。	1名の検食者は入居者の発せられた一言もコメントに残し、次回に生かせるようにしている。継続した日々の食事提供に期待したい。また、家族にはイベント食に限らず普段の献立を知らせる事でホームの日常が更に伝わるものと思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べ物や飲み物の好み、習慣を把握し食事量や水分量を確保している。また、体調や体重の増減、食事のタイミングや食器の工夫など一人ひとりに合わせ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状況に応じたケアを毎食後行ない、毎日夕食後に義歯の消毒を行っている。必要に応じ、歯科受診を受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握している。紙パンツ使用の利用者へも、表情などから声掛けや誘導を行っている。	把握したパターンを共有し、日中は基本的にトイレでの排泄を支援し、夜間はポータブルトイレを使用される方もおられる。排泄用品も個別に適切な用品を検討しており、紙パンツや布パンツに必要な応じパットを併用されている。トイレの掃除をはじめポータブルトイレもバケツや本体の水洗い、アルコール食毒を徹底し、掃除ブラシも洗浄後は戸外で日光干しされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で状況を把握し、飲食物の工夫を行い、個々に応じた対応を行っている。困難な利用者様は、主治医に報告をし服薬の併用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前中を中心にして、入浴支援を行っている。季節湯や変わり湯(よもぎや果物)など楽しめる入浴を行っている。1年に1回、近隣の温泉入浴を楽しみにしていたが、感染症対策で出来ていない。	脱衣所、浴室は整頓を心掛け、基本的に週2回午前中の入浴を支援しており、現在、全入居者が湯船に浸かる事が出来ており、ゆっくり入浴を楽しまれている。散歩中に摘んだよもぎや無農薬の柑橘(柚子・甘夏など)の皮を干したものを使った季節湯などホームの工夫が聞かれた。	現在近隣の温泉センターでの入浴外出が感染症により控えているが、再開が期待される。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、夜間の睡眠状況に応じ日中の午睡を取り入れながら、昼夜逆転に繋がらないように支援している。夜間の室温管理や寝具の清潔提供。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し、内容を確認している。飲み忘れや誤薬を防ぐため、服薬確認版、二重確認など徹底した取組みを行っている。本人の状態の経過や変化等を、定期的に医療機関へ報告することで、治療や服薬調整に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好まれる塗り絵やパズルなどを活動に取り入れ、楽しみある生活を支援している。洗濯物畳みや下拵えなど役割を持つことで、自分らしく過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策を行い季節毎に、施設内の畑見学や近隣の散歩、花の見学やお祭りに外出支援を行っている。	入居者の「出かけたたい！」の要望を受け感染対策を施し近隣の散歩やドライブ、桜や紫陽花、彼岸花、コスモスなどの花見学を支援している。職員は通勤途中、花の開花の状況をリサーチし、外出支援に活かしている。地元のおすままつりに出かけた際は、出店のたこ焼きを食べたり、外出できなかった入居者にお土産を購入し帰園するなど楽しい外出となったようである。ホームの菜園には季節に応じた野菜を育てており、草取りや苗植え等に参加される方もおられる。	家族も自宅への帰省や外泊の機会ができる事を心待ちにされており、感染症の状況をみながら再開されることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホーム側で管理している。ホーム管理は、収支状況を記録し家族へ定期的に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム側から現状報告を行う時や家族から連絡があった際は、本人と会話ができるよう支援している。また、本人が希望される時も電話し会話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる花を、各場所に飾ることで落ち着いた空間作りに努めている。また、利用者と手づくりの貼り絵を作成し、ホーム内に掲示することで、季節感を取り入れている。	2つのユニットは開設年が異なるが造りに大きな変わりはなくお隣さんとして行き来し、双方の職員が工夫しながら環境整備が行われている。ホーム内には継続されている近隣者からの差し入れや職員が持ち寄った草花が飾られていたり、入居者も一緒に作成した壁面作品の掲示など季節を感じる事が出来る。食事をする場所とテレビを見たりゲームなどを楽しむリビングコーナーが設けられ、本棚も置かれている。ホーム内は床はもとより、浴室内や洗濯機など細かに掃除を全職員で徹底し、居心地の良さに繋げている。	リビングからは田畑や車の往来など地域を眺めながらゆっくり過ごせる環境である。また方言を交えながら丁寧な職員の対応も入居者の居心地の良さに繋がっている。変わらぬ支援に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にソファを置くことで、気の合った利用者同士、またはひとりで思い思いに過ごすことが出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの物、テレビを設置するなど一人ひとりに合わせた部屋となっている。	入居時にこれまで使用していた物、大事にしていた物、自分の部屋と思ってもらえる物の持ち込みを伝えている。日記を書くためのテーブルや椅子が置かれた部屋、針を使ってズボンの裾上げをされる方もおられ、針作業が今後も安全に取り組まれることを願い針供養も行事に組み入れている。持ち込んだテレビをよく見る方もおられるが、あまり見られない方もおられるようである。ベッドはマットではなく畳敷きのため布団が湿りやすいことから毎朝布団を収納することでメリハリのある生活を支援している。また天候の良い日は努めて寝具を干すことで安眠に繋がっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室など場所がわかりやすいように表示することで、自立した生活が送れるよう工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000023		
法人名	社会福祉法人 慈友会		
事業所名	グループホーム慈愛 II		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字天月1345番地		
自己評価作成日	令和6年9月29日	評価結果市町村受理日	令和7年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和6年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>コロナ5類移行後も感染対策を講じながら、利用者が地域と繋がり暮らし続けられるよう清掃活動などに参加し交流を継続している。また、散歩などを通して、地域の方との交流のきっかけ作りに繋げている。家族とは定期的に連絡を取り合い、信頼関係を構築している。地域とはこまめに挨拶を交わし可能な限り関わりを大切にしている。施設では、花を植えたり、畑での野菜作りを通し、季節の移り変わりを感じながら収穫の喜びを共有している。利用者の健康管理に関しては、協力医療機関による月2回の訪問診療と24時間の緊急時対応がなされるなど、医療機関との緊密な連携を図ることが出来ている。</p> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共生の生活づくり」を基本理念とし、事業目標を具体的に設定することにより職員が共有でき実践へと繋がられている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染対策を講じながら地域の奉仕作業に参加するなど関係が途切れないよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染5類移行後も広範囲では行えていないが、運営推進会議の時につたえている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染5類移行後も感染に注意し定期的に会議を行い、行政、地域、民生委員、家族代表、利用者代表に参加いただき、報告や話し合いが出来き、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政へは常に現状報告を行っている。行政からの通達はメールで届いているため、最新の情報をケアサービスに反映させている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを基に定期的に話し合いを実施、全職員が拘束をしないケアを徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で高齢者虐待防止関連法について確認し、理解を深めている。言葉遣いや口調をお互いに注意し合える関係がある為、防止できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	知識を深める事に努めている。該当者がある場合は、関係機関に助言、指導を求めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、家族が納得がいくような説明を心がけ、不安や疑問について十分な説明を行っている。また、利用料金変更の対応など随時説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染5類移行後も感染対策として家族会は開催していないが面会時や電話連絡時等の際、聞き取りサービスの質の向上に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人ひとりの意見や要望を聞く機会を設けるなど、働きやすい職場環境に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の意見を聞く機会を設け、向上心を持って働けるような配慮や対応に努めている。また、業務改善委員会を毎月開催し、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は、管理者や職員一人ひとりの力量に合わせた、研修を動画で受けている。外部研修に関しては、WEB研修に参加するなど知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	水俣、芦北グループホーム連絡会で情報交換等を行っていたが、コロナ禍で開催されていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅へ訪問し、生活状況や本人の不安や要望等を聞き取り、関係作りに努めている。また、スタッフ間で情報共有できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	連絡を密に行うことで、家族の意向や要望、不安などしっかり受け止めながら、関係を築くことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、家族、本人の希望や要望を伺っている。状況によっては、関係機関と連絡を取り合い、必要なサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重しやりたい事、出来る事を見極め関わり、コミュニケーションが取れるようサポートするなど一緒に過ごす時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密に取り生活状況、心身の様子等を家族に伝えている。家族の意向を聞きながら、共に本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策継続中で難しいが、季節毎の外出の時、できる限り馴染みの場所を訪れるなどの支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が仲介役になり、共同生活が楽しくなるように支援している。また、利用者が孤立しないよう、共に暮らしを楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も状態把握に努め、必要に応じて相談を受ける体制を取っており、これまでの関係を断ち切らないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話やコミュニケーションから、本人様の希望や思いを把握し実践へと繋げている。困難な場合は全職員で検討したり、家族へ相談しその都度対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、利用者からコミュニケーションの中で、情報を収集し日頃のサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送り時に個々の現状、心身の様子等話し合い、連絡ノートも活用し情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見や要望、また日頃の職員の気づきなどを取り入れながら、チームで話し合い介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入している。また、日々の状態を申し送ることで情報を共有し、実践や見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々利用者や家族のニーズに対し、出来る限り実現できるよう柔軟な対応に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ5類移行後も感染対策のため積極的な実施はできていないが、本人の思いに添って近くの美容室へ行く等の支援は出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療と24時間の緊急時対応がなされ、より適切な医療が受けられている。また、専門医へは家族の希望を大切にし、医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時に看護師へ、状態や気づきなどを伝え相談することで、適切な診療や看護を受けることが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に足を運び、病院や家族に、回復状況の確認や情報をいただいている。また、主治医とは月2回の定例会議の中で、情報交換や相談ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要になってくると、ホームでは対応できないことを入居前に説明を行っている。自分達に出来る支援の関わりを尽くし、入院や退居などに至るまでの充実した対応を心がけている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を定期的実施していたが、コロナ5類移行後も行えていない。対応に不安な時は、管理者やかかりつけ医へ24時間連絡が出来るよう体制を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の災害訓練を行っているが、感染症対策の為、近隣住民との合同訓練が実施されていないが、災害時は、地元の消防団の協力体制も築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思いや気持ちを尊重しながら支援にあたっている。誇りやプライバシーを損ねないよう、スタッフ間で話し合い、言葉遣いや声掛けには注意を払い対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で、表情や反応を注意深く観察することに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者の状態や要望に応じて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服装などの好みを把握し、個別に支援している。爪切りは入浴時にチェックしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事への感想を検食簿へ記入することで、次の食事支援へと繋げ、楽しみのあるメニューを心掛けている。時々ではあるが、利用者と一緒に下拵えを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べ物や飲み物の好み、習慣を把握し食事量や水分量を確保している。また、体調や体重の増減、食事のタイミングや食器の工夫など一人ひとりに合わせ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状況に応じたケアを毎食後行ない、毎日夕食後に義歯の消毒を行っている。必要に応じ、歯科受診を受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握している。紙パンツ使用の利用者へも、表情などから声掛けや誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で状況を把握し、飲食物の工夫を行い、個々に応じた対応を行っている。困難な利用者様は、主治医に報告をし服薬の併用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中を中心にして、入浴支援を行っている。季節湯や変わり湯(よもぎや果物)など楽しめる入浴を行っている。1年に1回、近隣の温泉入浴を楽しみにしていたが、感染症対策で出来ていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、夜間の睡眠状況に応じ日中の午睡を取り入れながら、昼夜逆転に繋がらないように支援している。夜間の室温管理や寝具の清潔提供。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し、内容を確認している。飲み忘れや誤薬を防ぐため、服薬確認版、二重確認など徹底した取組みを行っている。本人の状態の経過や変化等を、定期的に医療機関へ報告することで、治療や服薬調整に活かしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好まれる塗り絵やパズルなどを活動に取り入れ、楽しみある生活を支援している。洗濯物畳みや下拵えなど役割を持つことで、自分らしく過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	感染症対策を行い季節毎に、施設内の畑見学や近隣の散歩、花の見学やお祭りに外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホーム側で管理している。ホーム管理は、収支状況を記録し家族へ定期的に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム側から現状報告を行う時や家族から連絡があった際は、本人と会話ができるよう支援している。また、本人が希望される時も電話し会話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる花を、各場所に飾ることで落ち着いた空間作りに努めている。また、利用者と手づくりの貼り絵を作成し、ホーム内に掲示することで、季節感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にソファを置くことで、気の合った利用者同士、またはひとりで思い思いに過ごすことが出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの物、テレビを設置するなど一人ひとりに合わせた部屋となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室など場所がわかりやすいように表示することで、自立した生活が送れるよう工夫している。		